国語科

（発表題目）

前のめりに単元に没入していく国語授業

加茂市立加茂南小学校

原　大樹（令和元年度）

（主張）

加茂市教育ビジョンが掲げる「ワクワクする授業」の実現に向け、児童が受け身の学習から脱却し、主体的に課題に向かう姿が求められる。一方で、本学級は、必要感や達成感の乏しい学習の積み重ねによる受動的な姿勢が課題であった。そこで、児童が学びの「当事者」として、「自分からやりたい」という思いと「どう進めるか」という見通しをもち、前のめりに単元へ没入する国語授業の創出に取り組んだ。

児童を学びの「当事者」とするため、以下の 2 点を重点的な手立てとして設定した。

①学びを表現できる言語活動（ゴール）の設定

魅力的なゴールを設定することで、学習に対するワクワク感を生み出し、前のめりに学習していく姿を目指した。

②児童と作る単元マップ（単元計画）の作成

初発の感想で生じた疑問や捉え方のズレをもとに児童自身に学習順序を構成させ、見通しをもたせることで単元に没入していく姿を目指した。

このように、「学びを表現できる言語活動（ゴール）の設定」と「児童とともに作る単元マップ（学習計画）」を両輪として導入することで、思いと見通しをもってワクワクする気持ちを醸成しながら、自ら前のめりに単元へ没入する主体的な姿を引き出すことができると考えた。